

「教育目標：心豊かに自ら生き抜く、心身ともにたくましい生徒の育成」

平成27年度 柳津町立西山中学校

# 学校だより

平成27年10月 2日(金)発行 第 23 号 発行責任者:高橋 弘悦

## 涼花さん、激戦の末頂点に！ 両沼新人バドミントン大会

両沼新人バドミントン大会が9月29日、坂下中学校体育館で開催されました。

女子団体は初戦で新鶴中学校に2勝1敗で勝利したものの、坂下中学校の層の厚さに屈し、残念ながら準優勝。

個人戦では、たった1名の参加となった金子天斗くんがシングルスで第3位、女子は1年シングルスで渡部涼花さんが優勝、2年シングルスで原 雅さんが準優勝、オープンダブルスで菊地真生・鈴木未夢ペアが第3位という結果になりました。

他の2校が30人を超える部員で参加する中、たった8人で挑んだ大会でしたが、その存在感は決して引けをとるものではなく、「きれいなバドミントン」は、新しい西山中バドミントンを予感させるものでした。生徒諸君のがんばりに感謝！

### シングルス決勝はどちらも大激戦

1年生の部には涼花さん、2年生の部には雅さんが進んだシングルの決勝…。どちらもフルセットにもつれ込む大激戦となりました。

準決勝までは危なげなく勝ち進んだ涼花さん。決勝の1セット目はミスが続いてはじめてセットを落とすものの、2セット目は試合勘が戻り勝利。3セット目は両者よさを発揮し合って一進一退の好ゲームとなりました。2度のデュースの末、最後まで集中力を切らさなかった涼花さんが見事優勝を勝ち取ることができました。

準決勝もフルセットで決勝に勝ち上がった雅さん。フットワークのよさと左右に打ち分ける頭脳プレーが光っていました。決勝でも粘り強くシャトルを拾い、手に汗を握る攻防となりましたが、最後は力尽きる形で惜敗…。決勝戦にふさわしい、すばらしいゲームでした。



# いよいよ定期テスト

2学期最初の定期テストが6日に行われます。部活動に精力を傾注していた1, 2年生も、大会の翌日には放課後の自主学習会に真剣に取り組んでいます。

でも…**勉強の仕方間違ってますか？**



新人戦の翌日には、何事もなかったように校内の各所に設けられた学習スペースに散らばって自主学習をしている生徒たち…。切り替えの見事さに本校生徒の成長を感じます。放課後の学習会のよさは、周りから刺激を受けてモチベーションが上がることとわからないところがあったら、近くにいる先生にいつでも聞きに行けること。そんなこともあって、放課後の学習会はかなりいい雰囲気です。

でも、先日「勉強を誤解していないかい？」と思わせられる場面に遭遇しました。

## 質問しに行く必要あるのかな？

社会科のワークブックに取り組んでいる生徒…。答えが埋められません。

「教頭先生に聞いてこよう！」「????」

確かに教頭先生に聞けば正しい答えを教えてくれるに違いありませんが、手元にはそのワークブックの解答集があります。短答式の問題ですので、見ればわかるんです。

「聞きに行くのはいいけど、解答を見ればいいんじゃないの？」

「え？答えを見ていいんですか？」

宿題として出されているのであれば解答を見るのは反則ですが、テスト勉強は「覚えて解答できる」ようになることがねらいです。決してワークブックの解答欄を埋めることが目的ではありません。聞きに行く時間があるのであれば、解答を見て正しい答えを知り、頭にたたき込み、次に同じ問題が出たら正しい答えがかけられるようにすることの方が大事です。一生懸命ワークに取り組む生徒を見て、無駄な時間を費やしていないか、不安になりました。

質問をするのは、数学の問題の解き方や理科の理由を問われるような問題、国語の解釈の仕方などに限られるでしょう。英語で「楽しみにしている」の英文訳を、覚えることなしに質問しにいても得点につながりません。「look forward to」と正しい答えを教えてもらっても、テストで得点するためには、これを無条件に覚えなければなりません。

## 得点力を上げよう！

覚えた知識は、ワークブックに取り組むことで、より確かなものになります。そのときに知識が不十分であることが判明したら覚え直します。その後で再度問題に取り組む、知識を強化します。その繰り返し勉強ですし、ワークブックはそのように使うものです。

数学で解き方がわからなくて質問しにいったときも同様です。先生の説明を聞いて納得したとしても、後で自分の力で解き直すことが必要です。

質問したことで満足し、勉強したつもりになっていないか、もう一度振り返ってみて欲しいものです。テストは自分で解答できるようになって、はじめて得点になります。

